

噴火と事業対応の経緯

日時	噴火・事業対応の経緯
平成2年11月17日	十九丸火口、地獄火口から19年ぶりに噴火。
平成3年5月20日	最初の溶岩ドームが出現。
平成3年5月24日	初めて大決壊が発生。
平成3年6月3日	大決壊が発生。死者行方不明者43名。国道7号通行止。
平成3年6月30日	水無川、奥山川、土庫川で初めて土石流が発生。
平成3年8月15日	大決壊が発生。大野木小学校が消失。
平成4年4月22日	奥崎園が「水無川砂防計画の基本構想」を発表。
平成4年6月17日	奥崎園知事が建設大臣に連続火山砂防事業化を陳情。
平成4年12月23日	平成5年度より開始。菅貫谷火山砂防事業を国の直轄事業として正式決定。
平成5年4月6日	建設省管轄土木事業研究所を開設。
平成5年6月23日～24日	伊那川平本木方向に大決壊が発生。(死者1名)
平成5年7月4日	水無川水無川に土石流発生。水無川号送砂機から左岸方向に土石流。土石流により国道7号、国道7号とも通行止めとなり、島原市が孤立化。
平成5年7月13日	建設省が試験フィールド制度による無人化施工技術の民間企業普及を決定。
平成5年11月11日	建設5号島原地区建設の建設工事に着手。
平成5年12月25日	試験フィールドによる無人化施工試験工事を実施。
平成6年2月6日	初めて奥山川方向に大決壊が発生。
平成6年3月7日	奥山川土石流による砂防工事再開。
平成6年4月6日	建設省と奥崎園が、安中三角地帯を強土処理地とすることを決定。
平成6年4月27日	島原管轄資料館開設。平成20年5月に閉館。
平成6年7月30日	建設5号下流。水無川送砂機稼働が完成。平成13年3月に全体完成。
平成7年5月25日	火山噴火予知連絡会「マグマの飽和と噴火活動は、ほぼ確立致す状態にある」という統一見解を発表。
平成7年6月11日	安中三角地帯掘削工事着手。
平成7年9月30日	安中三角地帯掘削工事を完了。水無川1号砂防堰堤工事着手。平成10年2月完成。
平成8年6月3日	九州大学太田教授 噴火活動の経路宣言。
平成8年8月8日	水無川2号砂防堰堤工事着手。遊歩道の早期掘削を開始。
平成8年9月29日	「島原管轄砂防指定地活用協議」発表。平成9年11月に工事着手した島原河川遊歩道が完成。全線掘削。
平成11年4月30日	旧大野木小学校被災後一般公開を開始。大野木博物館展示スペース(旧菅貫谷公民館)及び復興事業の学習施設を開設。
平成11年11月1日	「水無川砂防計画」を策定。「水無川」(旧上ノ堰)と「水無川」(旧下ノ堰)を建設。市況向け防災情報の提供を開始。
平成12年11月17日	「島仙：菅貫谷噴火10年復興記念式典」を開催。復興委員会発足。島原復興宣言。
平成13年9月3日	水無川中流部の噴火による土砂災害対策を実施。
平成13年9月3日	島仙：菅貫谷火山砂防計画検討委員会を設立し、火山砂防計画の策定を実施。
平成14年9月16日	大野木砂防のみ1線を閉鎖。
平成15年11月	北上木庫地区の農産物研修所などを整備。
平成19年11月16日	島原市が定年近くに達する労働者の数。
平成19年11月19日	新島山動物園開園(COVID-19発生前)。島原大会が開催。
平成23年3月18日	島原管轄遊歩道ドーム噴火に関する島原管轄検討委員会が発足され、遊歩道ドームが崩壊した際の影響範囲や対応策について検討。(COVID-19発生前)
平成23年6月3日	島仙：菅貫谷噴火災害20周年追悼式を開催。
平成23年12月19日	「島仙：菅貫谷遊歩道ドーム噴火に関する調査・観察及び対策検討委員会」が発足され、遊歩道ドーム噴火の調査・観察及び対策を決定。(COVID-19発生後)
平成25年1月25日	島原半島における大規模土砂災害を想定した合同訓練を実施。
平成25年12月25日	関係機関が参加し遊歩道ドーム噴火を想定した合同防災訓練を実施。
平成26年8月4日	「島仙：菅貫谷遊歩道ドーム噴火対策協議会検討会」及び「島仙：菅貫谷遊歩道ドーム噴火ソフト対策検討委員会」の発足と開催。島原復興宣言。遊歩道ドーム噴火の発生に備え、砂防事業の策定などを行うハード対策、ソフト対策を策定し、遊歩道ドームの観音堂併設型噴火情報の発信方法などを検討。
平成27年12月1日	「島仙：菅貫谷火山砂防計画検討委員会」を開催。火山砂防事業の推進を決定。
平成28年12月2日	九州地方整備局管轄砂防事業委員会が発足され、「事業を推進することにより土石流に対する安全の向上に期待できる事業の推進が最も高い」とことから、事業期間を12年まで延長し、事業継続が決定。

公共工事による効果

公共工事は、みんなが利用する道路や地域を流れる川などで行う工事のことです。公共工事による効果には、2つの効果があります。1つは公共工事によって建設されたもののものが發揮する機能で**ストック効果**と呼ばれます。例えば、砂防工事の建設により地帯が安全になると、中堅以上の建物の建設により便利になることなど、長年にわたって地域経済の成長を促す効果のこと。もう1つは、公共工事によって建設による経済効果で**フロー効果**と呼ばれます。例えば、工事現場における資材搬入や工事関係者の宿泊など生産・消費活動、工事現場における雇用の増加など、短期間ではあるが、地域の経済を活性化させることをいいます。

- ストック効果 (建設効果)
 - 安心・安全の向上
 - 生産性の向上
 - 生活の質の向上
 - 雇用の増加
 - 所得増加による消費拡大
- フロー効果 (間接効果)
 - 生産活動の創出
 - 雇用の増加
 - 所得増加による消費拡大

砂防事業によるストック効果

効果1 安中三角地帯嵩上げ事業による生活再建!

◆水無川流域に被害をもたらした土石流の再発を防止し安中三角地帯嵩上げや農地の復旧に貢献しています。最も被害が大きかった安中三角地帯では、宅地が再建され噴火より地帯が回復しています。

噴火前に比べ世帯数が1.2倍に増加



管内空中写真 Aerophoto of Mt.Fugen 撮影:平成21年2月 Feb.2009

効果2 安徳海岸立地事業地で健康増進!

◆水無川流域に被害をもたらした土石流の堆積土砂を安徳海岸立地事業に利用し、平成12年に島原復興アリーナを整備しました。島原復興アリーナでは、年間約30万人が利用し、健康増進に寄与しています。

約6倍の健康増進に寄与する島原復興アリーナの整備

効果3 巨石を利用した農地整備で生産性向上!

◆水無川流域に被害をもたらした土石流の堆積土砂を安徳海岸立地事業に利用し、平成12年に島原復興アリーナを整備しました。島原復興アリーナでは、年間約30万人が利用し、健康増進に寄与しています。

長崎県全体の43%を占める島原半島の農業総生産高

効果4 無人化施工技術の進化!

1984 土砂崩壊に無人化施工
1988 世界初の砂防堰堤無人化施工
2001 スリット堰堤を無人化施工

福島第一原子力発電所で対応する無人化施工技術

2018 3Dプリンター等を用いた、3D印刷による橋脚建設

効果5 土石流被災家屋保存公園

◆土石流被災家屋保存公園。全国初の土石流被災遺構。無料駐車場あり



平成新山フィールドミュージアム

◆雲仙岳災害記念館(かまたすドーム) Mt.Uzen Disaster Memorial Hall(Gamadas Dome) ~全国初の火山体験学習施設~

- 展示ゾーン入場料(大人1,000円、中学生700円、小学生500円)
- 開館時間/9:00~18:00(入館は17:00まで)
- 年中無休(無料駐車場あり)

◆大野木場砂防みらい館 Onokubo Observation Post ~世界初の無人化施工技術のミュージアム~

- 入場無料(開館時間/9:00~16:30)
- 休館日/12月29日~1月3日(年末年始/12月31日、1月1日)
- 無料駐車場あり

◆平成新山ネイチャーセンターと垂木台地園地 Hasei-Shizan Nature Center & Taraki Plateau Garden ~平成新山の自然体験・体験フィールド~

- 入場無料(開館時間/9:00~17:00(年中無休))
- 無料駐車場あり

凡例: ●●● 警戒区域 ●●●●● 砂防指定地(6条) ●●●●● 国道 ●●●●● 国道(道路整備区間) ●●●●● 広域農道